

平成27年度 学校評価計画書

石川県立金沢伏見高等学校

重点目標		具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考		
1	確かな学力の確立と規律ある学校生活・家庭生活・家庭生活定着の推進	(1) 魅力ある授業の展開・日常的な課題を工夫するなど学習意欲を喚起するとともに、基礎学力の定着を図る。	①	学習時間の調査を通して、自ら見通しを持って家庭学習に取り組む態度を育て、学習意欲の向上を図る。	教務課 各学年	学年+1時間の学習時間を求めたが、昨年度全校平均で目標を達成した生徒は8.8%(D)であり、家庭学習習慣が定着しているとはいえない。担任を中心に指導を根気よく行っていく。	【成果指標】 家庭学習時間が、学年+1時間以上である生徒が40%以上である。	家庭学習時間が学年+1時間以上である生徒が A：50%以上 B：40%以上 C：30%以上 D：30%未満	C、Dの場合、生徒への働きかけを再検討する。	毎月集計し推移を注視する。
		(2) 45分授業の導入に伴う教授内容・方法の確立を図る。	②	本校における教授内容・方法を研究し確立していくために、まずは1年生に対して本校の学力スタンダードを作成する。	教務課 各教科 1年	教授内容・方法は個人個人の教員に任されており、本校としてのスタイルの確立・継承はなされていないのが現状である。	【満足度指標】 本校のスクールポリシーに基づいた1学年学力スタンダードが作成されたと思う教員の割合が80%以上である。	本校のスクールポリシーに基づいた1学年の学力スタンダードが作成されたと思う教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合、生徒への働きかけを再検討する。	7月と12月に教員への調査を実施する。
		(3) 朝学習・授業・家庭学習・補習等の体系化を図る。	③	授業をベースとして、生徒の学力や理解度に応じて朝自習、週末課題、補習等を体系的に行う。	教務課 各学年 各教科	学習意欲が向上し学力が定着したと思う生徒の割合は75.8%(B)であった。	【満足度指標】 親子ともに学習意欲が向上し学力が定着したと思う割合が70%以上である。	親子ともに学習意欲が向上し学力が定着したと思う割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合、面談等を通して生徒への働きかけを再検討する。	7月と12月に生徒及び保護者への調査を実施する。
2	上級学校を目指す普通高校としてより高い志を実現できる進路指導の推進	(1) 将来を見据えたキャリア教育を推進し、個に応じた進路指導を実践する。	①	学年段階に応じたキャリア教育を実施し、面談を行う中で進路目標を考えさせるよう指導する。	進路指導課 1、2年	昨年度末のキャリア教育に関して生徒の肯定的評価の割合は72.7%(C)であった。系統的で個に応じた指導を継続していく。	【満足度指標】 本校で行うキャリア教育や面談指導が進路を考えるうえで参考になったとする生徒の割合が80%以上である。	本校の行うキャリア教育や面談指導が進路を考えるうえで参考になったとする生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合、取組を再検討する。	7月と12月に生徒への調査を実施する。
		(2) 普通科高校として大学への進学指導を積極的に推進する。	②	大学入試センター試験を目標とする生徒が増えるよう指導する。	進路指導課 3年	昨年度の3年生で大学入試センター試験の受験者の割合は54.8%(166名)(C)であった。国公立大学のみならず私大でも利用できるメリットを知らせ受験者数を増やしたい。	【成果指標】 センター試験受験者が3年生の70%以上である。	センター試験受験者が3年生の A：80%(220人)以上 B：70%(190人)以上 C：60%(160人)以上 D：60%(160人)未満	C、Dの場合、取組を再検討する。	1月末に調査
			③	推薦入試ばかりでなく、個別学力試験で合格するよう指導する。	進路指導課 3年	3年生の国公立大学への出願は26人(D)であった。4月当初の調査から減少していく傾向がある(昨年4月当初は53人)のでその維持に向け系統的な働きかけが必要である。	【成果指標】 個別学力試験で国公立大学への出願者が60人以上である。	個別学力試験で国公立大学への出願者が A：70人以上 B：60人以上 C：50人以上 D：50人未満	C、Dの場合、取組を再検討する。	3月末に調査
		(3) 3年間を見通した計画の中で、高い志を実現できる進路システムを確立する。	④	高い志を実現できるよう、学年段階に応じた進路システムの構築を図っていく。	進路指導課 1、2、3年	全学年が普通科に初めて統一され、今年度、普通科初の卒業生を出すことになるが、3年間を見通した確たる指導は模索の途中である。	【満足度指標】 高い志を実現できるよう、学年段階に応じた進路システムの構築が図られていると答える教員の割合が80%以上である。	高い志を実現できるよう、学年段階に応じた進路システムの構築が図られていると答える教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合、取組を再検討する。	7月と12月に教員への調査を実施する。

平成27年度 学校評価計画書

石川県立金沢伏見高等学校

重点目標		具体的取組		主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
3	誠実で品位ある人間性を育む	(1) 時間を守る等、基本的な生活習慣の確立を図る。	① 10分前登校など各学年ごとに遅刻を減少させる取組を実施する。	生徒指導課 各学年	昨年度遅刻延べ人数は1038名である。前年度比は3年生のが92%と減少傾向にあるものの、2年生は179%と増加傾向にあり、全学年では(D)評価であった。特に遅刻常習者への指導が課題である。	【成果指標】 遅刻延べ人数が前年度と比較して10%以上の減少である。	遅刻延べ人数が前年度と比較して A：20%以上減少した B：10%以上減少した C：10%未満の減少であった D：増加した	C、Dの場合、面談等を通して生徒への働きかけを再検討する。	毎日記録をつけるとともに、7月と12月に集計する。
		(2) ボランティア活動に積極的に参加する意識を醸成する。	② ボランティアの意義や啓発の機会を通して、生徒の意識を向上させる。	特活指導課 各学年 各部活動	昨年1年間でボランティア活動に参加した生徒の延べ数は60.9% (B) であった。ボランティア活動は本校の伝統的な活動であるので継続して行っていく。	【成果指標】 ボランティア活動に参加した生徒の延べ人数が全生徒数の60%である。	ボランティア活動に参加した生徒数の延べ人数が A：70% (610人)以上 B：60% (520人)以上 C：50% (430人)以上 D：50% (430人)未満	C、Dの場合、その意義や精神を伝える取組を再検討する。	7月と12月に生徒への調査を実施する。